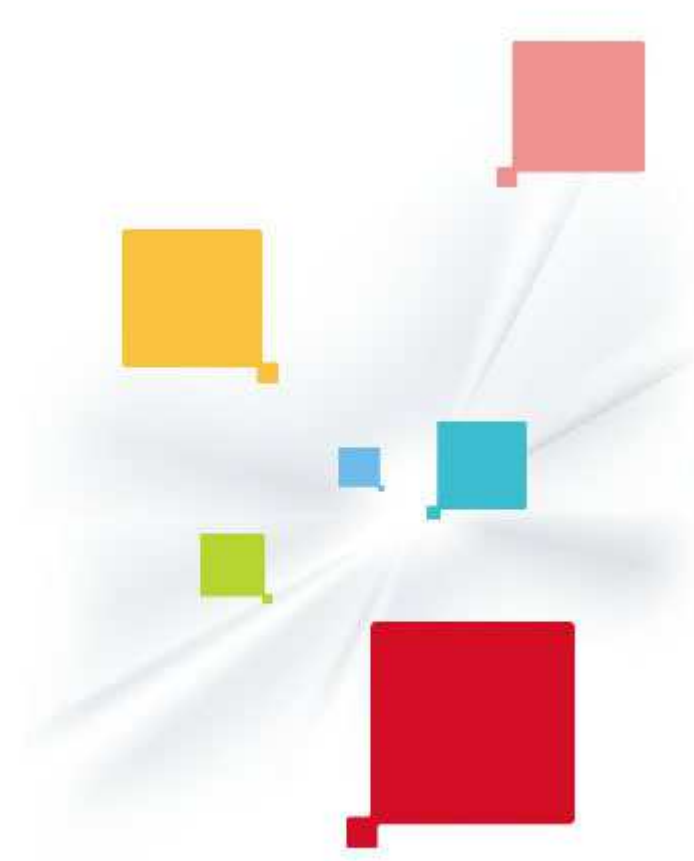


2022年度 4-6月期 決算概要

2022年 8月 3日
株式会社リコー



本資料に記載されている、リコー(以下、当社)の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。従って、実際の業績は異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠なさないようお願い致します。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、a) 当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、b) 為替レートの変動、c) 当社の事業領域に関連して発生する急速な技術革新、d) 激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品・サービスを当社が設計・開発・生産し続ける能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。(参照：「事業等のリスク」<https://jp.ricoh.com/IR/risk.html>)

本資料に他の会社・機関等の名称が掲載されている場合といえども、これらの会社・機関等の利用を当社が推奨するものではありません。本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

本資料における年号の表記：4月から始まる会計年度の表記としております。
(例) 2022年度 (FY2022)：2022年4月から2023年3月までの会計年度

2022年度 4-6月期 決算概要

2022年度 4-6月期 決算のポイント

業績

- 全ビジネスユニット増収増益
 - ✓ 全社営業利益は、為替や一過性要因等を除いた実質値で想定内の進捗
 - ✓ 部材不足及び上海ロックダウン等の外部要因に対し、柔軟な調達・生産施策で対応
- オフィスプリンティング
- ハード： 上海ロックダウン等に対し、生産状況は回復傾向
原材料や海上輸送費等による原価押し上げ分はコスト改善とともに市場で吸収
→供給量回復に伴い、市場需要に応じていく
- ノンハード： 全体では想定内。日本はやや下回ったが、欧米は緩やかに回復
- オフィスサービス
- 日本を中心に商材不足の影響は継続も、事業成長に向けた施策は着実に進捗
→欧州では成長投資効果を追求
→日本では7-9月期以降のリカバリーを計画

- プライシングコントロールや体質強化は計画通り進捗
- 2022年度見通しは変更なし

資本収益性 向上に向けた 取り組み

- ROICツリー管理の運用本格化
- 自己株式取得300億円実施中（6月末時点 進捗 約39%）

2022年度 4-6月期決算 <連結損益計算書>

部材不足・輸送費影響続くも、体質強化・プライシングコントロール等により、増収増益

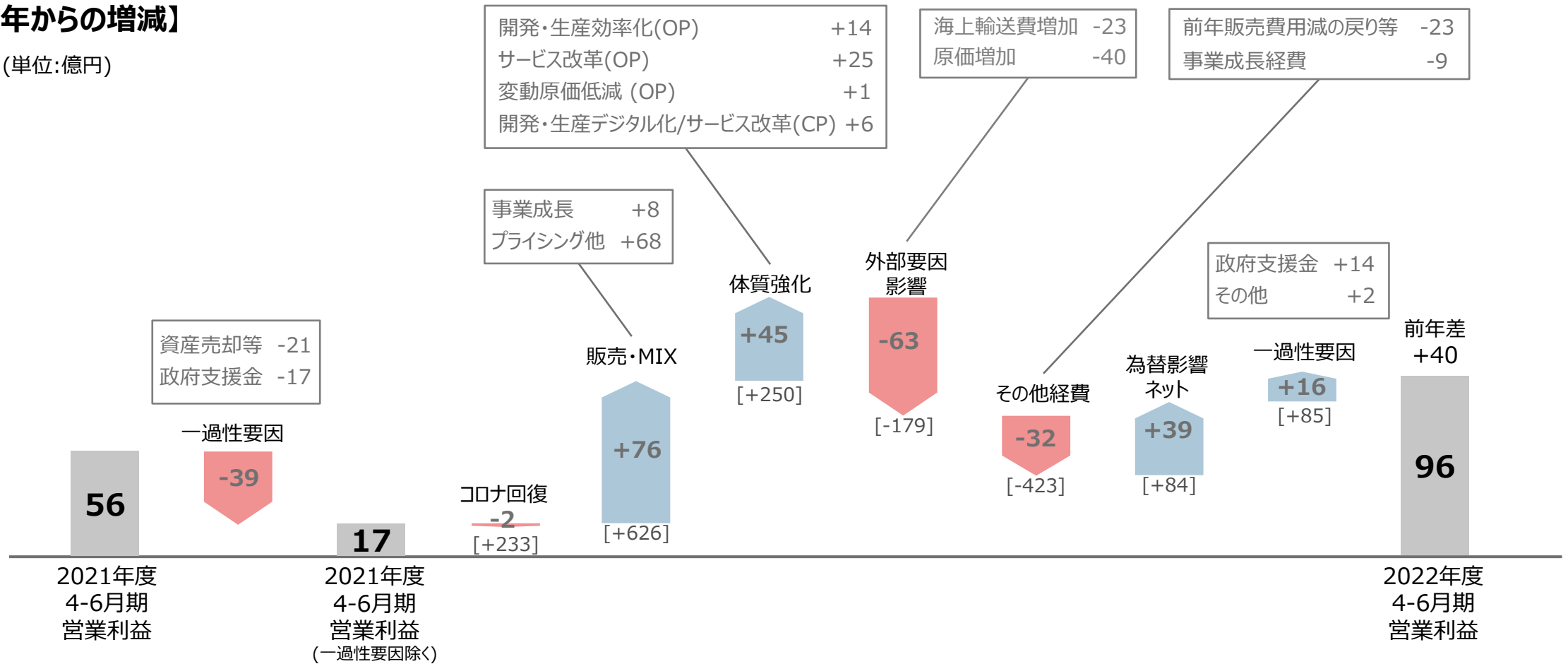
	2021年度 4-6月期	2022年度 4-6月期	前年比	
売上高	4,248億円	4,593億円	+345億円	+8.1%
売上総利益	1,523億円 (35.9%)	1,680億円 (36.6%)	+156億円	+10.3%
販管費等	1,466億円 (34.5%)	1,583億円 (34.5%)	+116億円	+8.0%
営業利益	56億円	96億円	+39億円	+69.9%
営業利益率	1.3%	2.1%	+0.8pt	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益	47億円	75億円	+28億円	+58.6%
EPS	6.77円	11.98円	+5.21円	
期中平均 為替レート	1USドル 1ユーロ	109.50円 131.92円	+20.01円 +6.10円	
研究開発投資	229億円	231億円	+2億円	
設備投資 (有形固定資産)	75億円	82億円	+6億円	
減価償却費 (有形固定資産)	104億円	101億円	-3億円	

要因別営業利益

品不足継続等によりコロナ回復・事業成長は緩やかだが、コスト上昇分に対するプライシングコントロールを着実に実施
 体質強化や外部要因対応等により、営業利益の進捗は想定範囲

【前年からの増減】

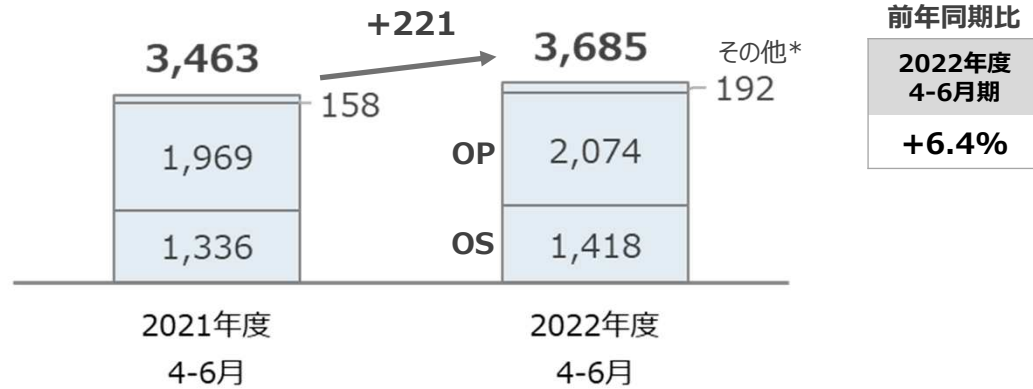
(単位:億円)



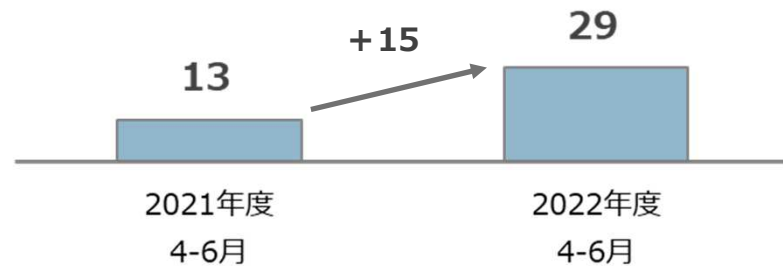
リコーデジタルサービス

MFP・IT商材品不足の中、増収増益確保

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



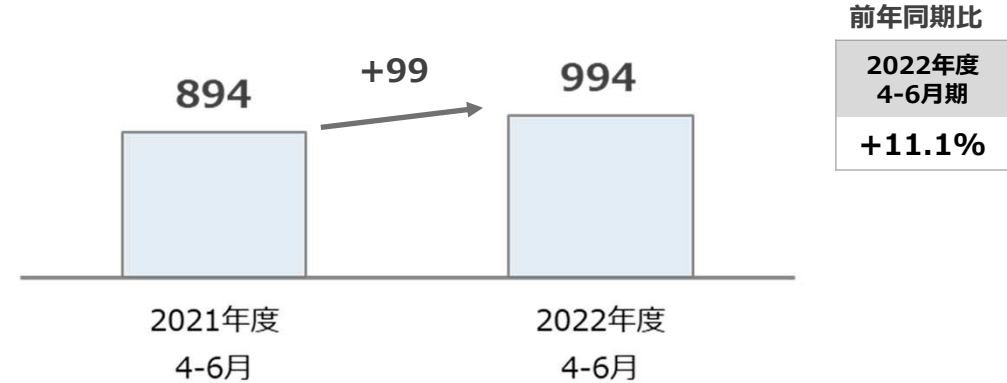
*その他：環境ソリューション、産業ソリューションなど

リコーデジタルプロダクツ

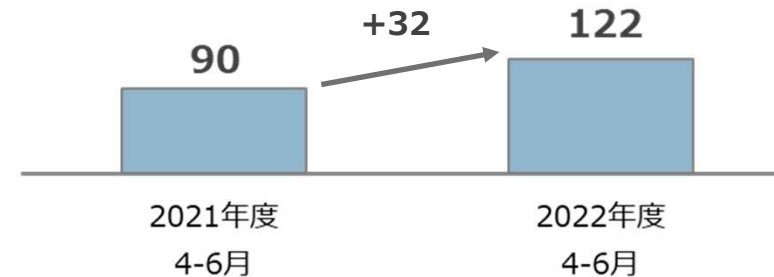


上海ロックダウンにて一部生産ライン停止も6月に再開、柔軟な生産努力により増収増益

売上高 (億円)



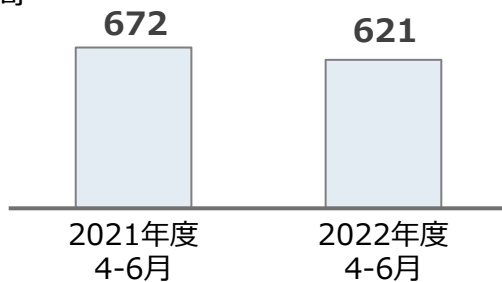
営業利益 (億円)



リコーデジタルサービス（オフィスサービス）

日本

売上高
(億円)

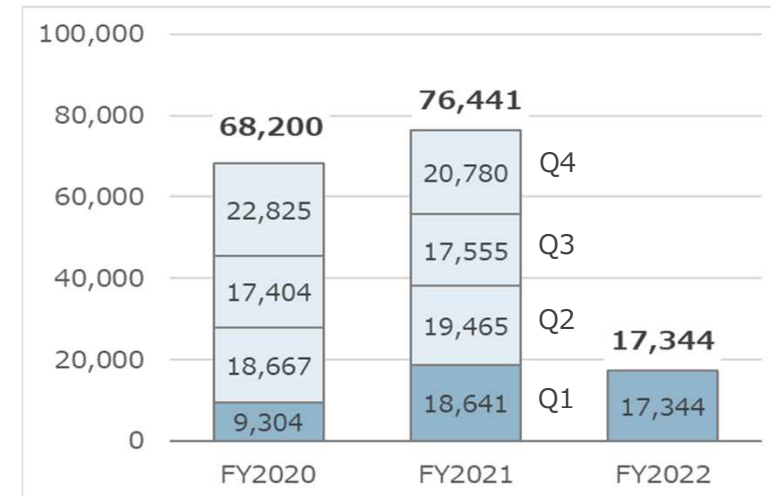


IT商材不足の影響継続も、スクラムシリーズ2桁伸長

- ① スクラムパッケージ（中小企業ターゲット）
セキュリティ関連好調、電帳法改正対応の新規サービス堅調推移
- ② スクラムアセット（中堅企業ターゲット）
システム導入後の運用代行、仮想化集約・セキュリティ関連を中心に好調継続、前年比 売上高2倍

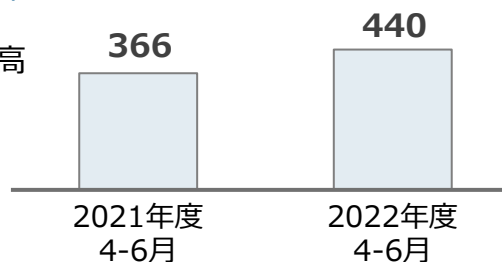
2022年度4-6月期 実績	売上	前年比	本数前年比
スクラムパッケージ	94億円	85%	93%
スクラムアセット	60億円	208%	—
合計	155億円	110%	—

(本) スクラムパッケージ販売本数



欧州*

売上高
(億円)



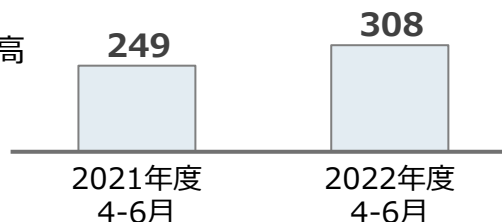
* 欧州・中東・アフリカの売上高

ニューノーマル対応を見据えた施策展開により成長を更に加速

- ① 買収企業の業績・シナジー創出は引き続き堅調
Axon-Ivy社ソリューションのリコー顧客展開開始
- ② Leading Change at Work (LCAW) キャンペーン
順調に立ち上げ、案件開拓順調 受注:€30M
- ③ リスキルによりエンジニアをOPからOSへのシフトを加速

米州

売上高
(億円)



デジタルサービスへの転換に向けて進捗、新サービス好調

- ① セキュリティ対策のITサービスは好調推移
- ② BPSはオフサイトに加えオンサイトも売上回復
- ③ 大手層の3業種（医療・金融・小売）を重点化し、ポートフォリオ強化

売上内訳 (億円)	2022年度 4-6月期	前年同期比
オフィスサービス 計	1,418	+6.2%
ITインフラ (ハード・ソフト)	498	-6.3%
ITサービス (メンテナンス、アウトソーシング、等)	315	+12.6%
アプリケーション (業種・業務アプリ、自社アプリ)	259	+10.5%
BPS (顧客出力センターの受託、等)	283	+20.6%
その他	61	+14.4%

リコーデジタルサービス（オフィスプリンティング）

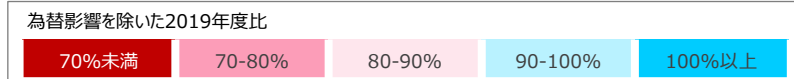
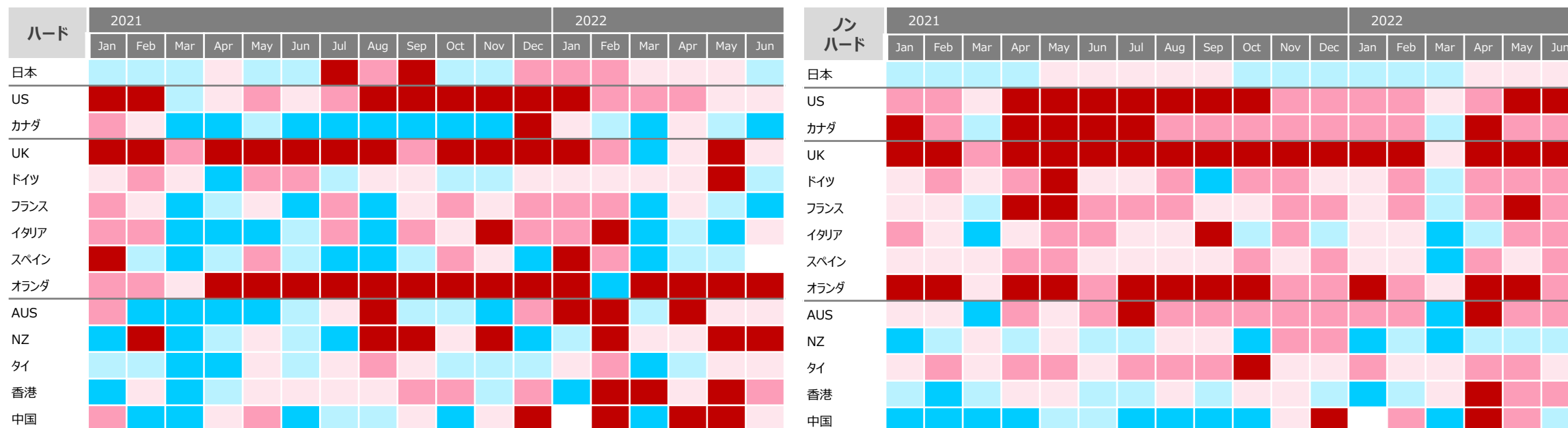
- **ハード：** 上海ロックダウン等により品不足影響はあったが、販売は回復傾向
原材料や海上輸送費等による原価押し上げ分はコスト改善とともに
市場で吸収
- **ノンハード：** 日本でやや想定を下回ったが、欧米および全体ではほぼ想定線

FY19同期比（為替影響除く）

* コロナ影響を除いたFY19対比

OP売上	21年度				22年度
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
ハード	85%	73%	72%	79% (69%*)	82%
ノンハード	79%	78%	82%	86% (79%*)	80%
日本	90%	78%	91%	87%	88%
米州	75%	68%	64%	76%	74%
欧州	77%	80%	76%	83%	78%

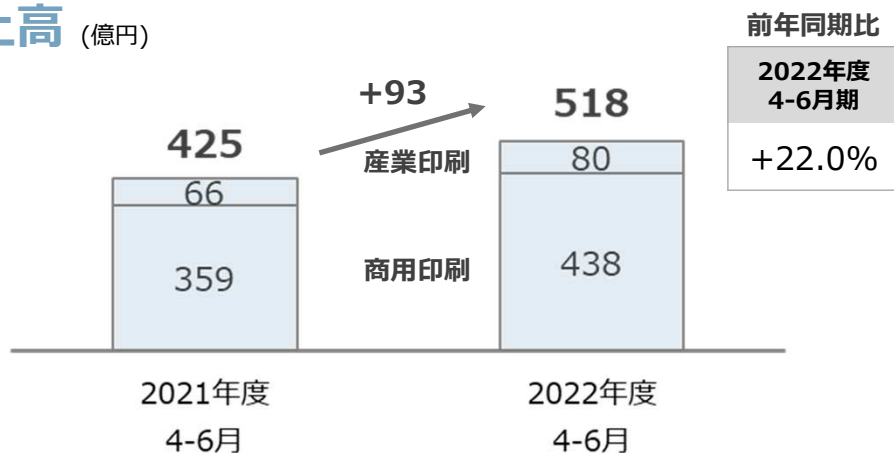
売上ヒートマップ（国・地域別、2019年度同月比）



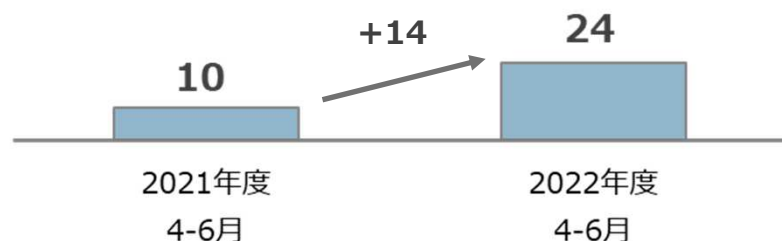
リコーグラフィックコミュニケーションズ

商用印刷のハード・ノンハード回復、体質強化の継続的な実行により、増収増益

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



概況

● 商用印刷

ハード : 顧客の投資意欲回復により、前年伸長
部品不足影響は代替部品調達等で対応

ノンハード : 印刷業向けを中心に増収

FY19同期比 (為替影響除く)

CP売上	21年度				22年度
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
ハード	73%	68%	72%	87%	84%
ノンハード	86%	92%	95%	94%	95%
日本	98%	98%	97%	110%	101%
米州	77%	78%	80%	89%	87%
欧州	74%	82%	86%	90%	86%

● コンポーネント (IJヘッド)

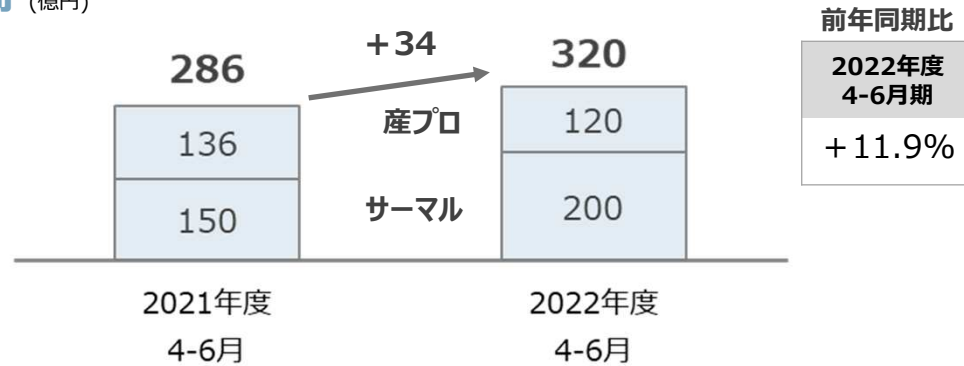
サイングラフィック用途中心に好調、2桁増収継続

● 体質強化は計画通り (進捗率29%)

リコーインダストリアルソリューションズ

外部要因影響継続も、プライシングコントロール等により業績改善

売上高 (億円)



概況

● サーマル

社会課題解決型商品の拡販、流通分野の需要堅調により売上成長

米州：物流需要拡大

欧州：新ライン稼働による顧客獲得

日本：剥離紙レスラベル堅調

原材料・輸送費高騰影響はプライシングコントロール等で吸収

● 産プロ*

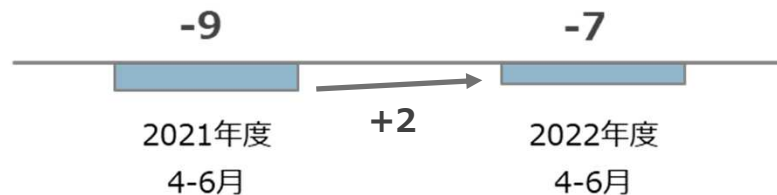
オプティカル事業：

自動車関連顧客の減産影響続く

エレクトロニクス事業：

産業用ロボット向け等が堅調

営業利益 (億円)

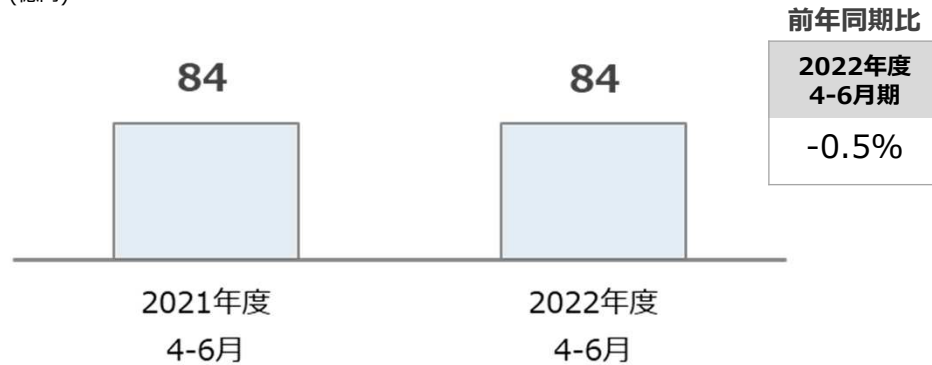


* 産業プロダクツ事業：オプティカル事業(車載用カメラ、プロジェクターユニットなど)、エレクトロニクス事業(産業用コントローラなど)、精密部品事業など

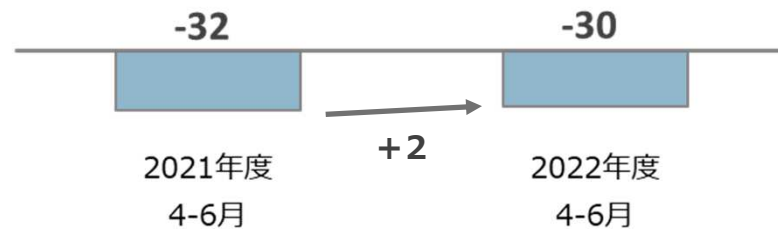
その他

前年並みの収益で推移

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

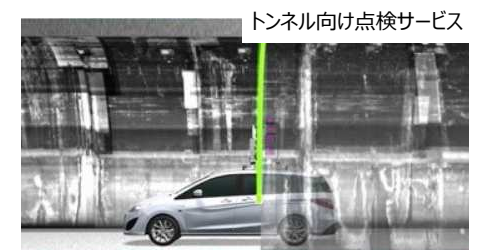


概況

- SmartVision
RICOH360 クラウドサービスの新規顧客開拓順調
- 新規事業創出のための投資によりセグメントとしては赤字
リコーフューチャーズBUにて新規事業ポートフォリオマネジメントを推進

新規事業進捗

- 創薬支援
エリクサジェン・サイエンティフィック社子会社化
日本初のmRNA医薬品の製造受託サービスを本格稼働
- 社会インフラ向け点検サービス
(光学技術・AIによるインフラ点検業務のDX推進)
のり面*：宮崎県との実証実験完了、サービス化に向け手ごたえ
路面・トンネル：着実にパートナー・案件獲得進む



連結財政状態計算書

製品供給回復に向けたプロセスで在庫積み増し
総資産は為替影響除くと前年度末水準で推移

資産の部

(単位:億円)	2022年 6月末	22/03末比 増減額	
流動資産	10,646	+521	
現金及び預金	2,522	+118	
営業債権及びその他の債権	3,873	-97	
その他の金融資産	948	+25	
棚卸資産	2,645	+320	生産回復による販売在庫 部材先行購入など生産 在庫増加
その他の流動資産	655	+155	
非流動資産	8,661	+253	
有形固定資産	1,889	+4	
使用権資産	586	+9	
のれん及び無形資産	2,768	+173	戦略投資
その他の金融資産	1,321	+38	
その他の非流動資産	2,096	+27	
資産合計	19,307	+775	

負債及び資本合計の部

(単位:億円)	2022年 6月末	22/03末比 増減額	
流動負債	6,970	+36	
社債及び借入金	1,004	-139	返済
営業債務及びその他の債務	2,668	-17	
リース負債	233	+6	
その他の流動負債	3,064	+186	
非流動負債	2,964	+424	
社債及び借入金	1,622	+412	調達
リース負債	445	+1	
退職給付に係る負債	450	-6	
その他の非流動負債	446	+18	
負債合計	9,935	+461	
親会社の所有者に帰属する 持分合計	9,334	+314	為替換算差額の増加 自己株取得 配当支払い
非支配持分	37	+0	
資本合計	9,372	+314	
負債及び資本合計	19,307	+775	
有利子負債合計*	2,626	+272	

(参考) 期末日為替レート: US\$ 1 = ¥ 136.68 (+14.29)
EURO 1 = ¥ 142.67 (+5.97)

(22/03末比増減)

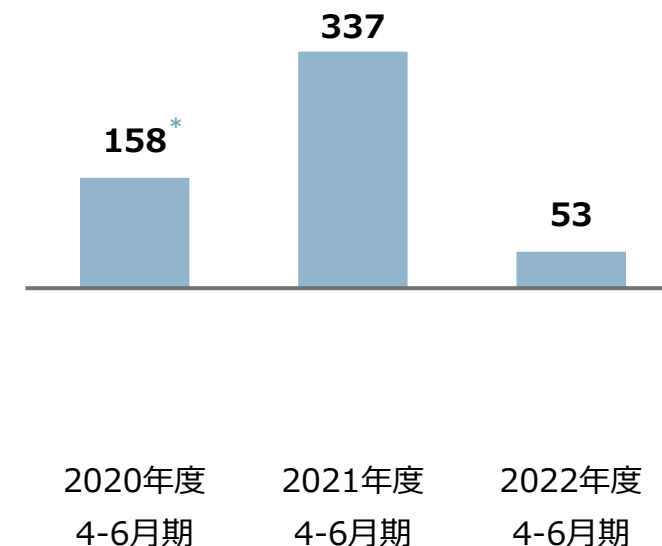
*有利子負債: 社債及び借入金

連結キャッシュフロー計算書

当期利益は増加も、棚卸資産の増加等によりフリーキャッシュフローは前年比で減少
株主還元は計画通りに進捗

(単位:億円)	2021年度 4-6月	2022年度 4-6月	
当期利益	48	76	増益
減価償却費	234	226	
その他の営業活動	195	-104	生産回復による販売在庫、 部材先行購入など生産在庫の増加
営業活動によるキャッシュフロー	478	198	
有形固定資産の取得及び売却	-42	-66	
事業の買収	-22	-7	
その他の投資活動	-75	-71	
投資活動によるキャッシュフロー	-140	-145	
有利子負債*の純増減 *社債及び借入金	-34	210	
支払配当金	-53	-82	
自己株式の取得	-252	-118	計画通り進捗
その他の財務活動	-89	-80	
財務活動によるキャッシュフロー	-430	-70	
換算レートの変動に伴う影響額	6	111	
現金及び現金同等物の純増減額	-86	94	
現金及び現金同等物期末残高	3,216	2,434	
フリーキャッシュフロー(営業C/F+投資C/F)	337	53	

フリーキャッシュフロー推移 (単位:億円)



* リコーリース株式譲渡+78億含む
(株式売却+368-RL保有現金289)

ESGアップデート

主な取組み実績

- 2022年 4月 日本での先駆的な取組を促進する
「生物多様性のための30by30アライアンス」発足時に参画
30by30：2030年までに陸と海の30%の保全を目指すことを指し、「ポスト2020生物多様性枠組案」の目標案のひとつ。2021年6月のG7サミットにて、G7各国が先行して約束
- 7月 リコージャパン、「サステナビリティレポート2022」
「SDGsコミュニケーションブック2022」を発行
三井住友信託銀行と
ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結

主な外部評価

- 2022年 4月 GPIFのESG投資パッシブ運用ベンチマークとして採用された
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
構成銘柄に選定
- 6月 「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に選出
日本経済新聞社と英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタが共同で温暖化ガスの削減度合いを調査、トップ200企業を選出
- 7月 「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」
「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」
「FTSE Blossom Japan Index」に選定され、
GPIFが採用する5つのESG指数（国内株式）すべてに選定

オフィスサービス評価

主な外部・パートナー評価

- 2022年 4月 米 欧 Gartner社による
デジタルワークスペースアウトソーシングサービスの
マジック・クアドラントに選出
- 5月 日本 リコージャパン、「CYBOZU AWARD 2022」
セールス部門賞及びエリア賞2部門を受賞
- 米州 Ricoh USA、ChannelE2E社 Top100
Vertical MSP（2022年版）にランクイン
- 6月 日本 リコー、「デジタルトランスフォーメーション銘柄
（DX銘柄）2022」に選定
- 米州 Ricoh USA、The Channel社 CRN 2022
Solution Provider 500 Listにランクイン
- 7月 日本 リコージャパン、マイクロソフト ジャパン パートナー
オブ ザ イヤー 2022を受賞

2022年度通期見通し

2022年度見通し <主要指標>

期初見通しから変更なし

4-6月期は見通し想定で着地。厳しい外部環境が継続するが、中計で掲げた事業成長・体質強化を完遂する。

	2021年度 実績	2022年度 見通し	前年比
売上高	17,585億円	20,500 億円	+16.6%
売上総利益	6,226億円	7,350億円	+18.0%
販管費等	5,826億円	6,450億円	+10.7%
営業利益	400億円	900 億円	+124.7%
営業利益率	2.3%	4.4%	+2.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	303億円	630億円	+107.4%
EPS	45.35円	102.11 円	+56.76円
ROE	3.3%	7%	+3.7%
ROIC	2.8%	5%以上	+2.2%以上
期中平均 為替レート	1USDドル 112.36円 111-0	125.00円 135.00円	+12.64円 +4.45円
研究開発投資	967億円	1,020億円	52億円
設備投資(有形固定資産)	373億円	410億円	36億円
減価償却費(有形固定資産)	398億円	420億円	21億円

2022年度見通し 要因別営業利益

期初見通しから変更なし

(参考) 為替感応度*

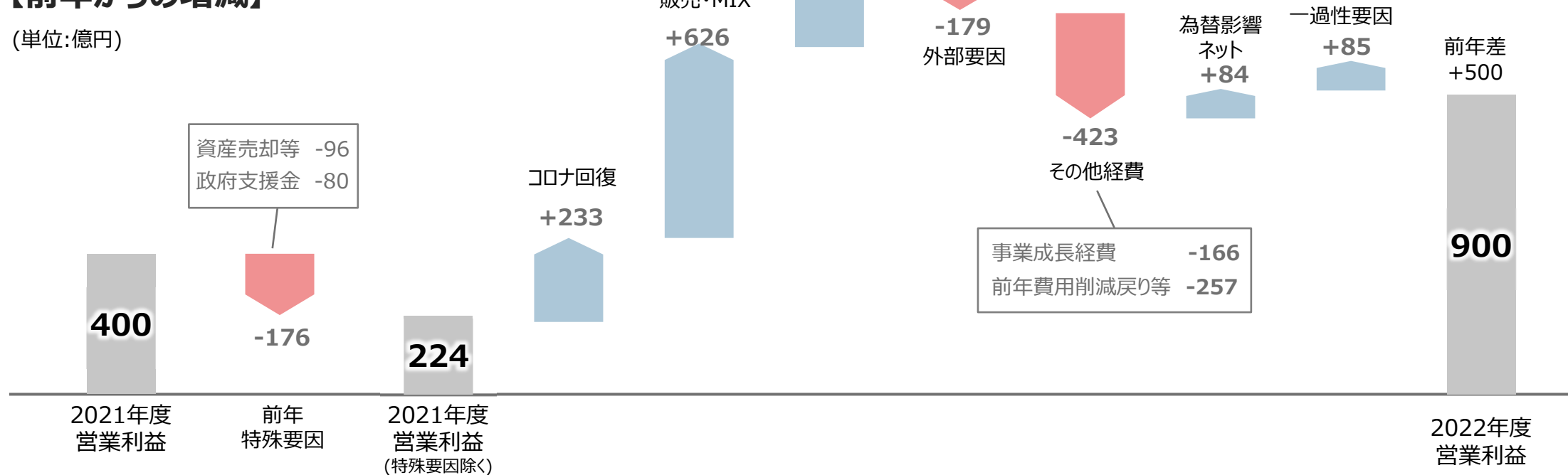
(億円)	売上	営業利益
USドル	40	3
ユーロ	34	10

*1円の変動による年間影響額

製品原価低減(OP)	+60
開発・生産効率化(OP)	+40
サービス改革(OP)	+111
開発・生産デジタル化/ サービス改革(CP)	+21
調達・生産・販売体制効率化(RIS)	+18

【前年からの増減】

(単位:億円)

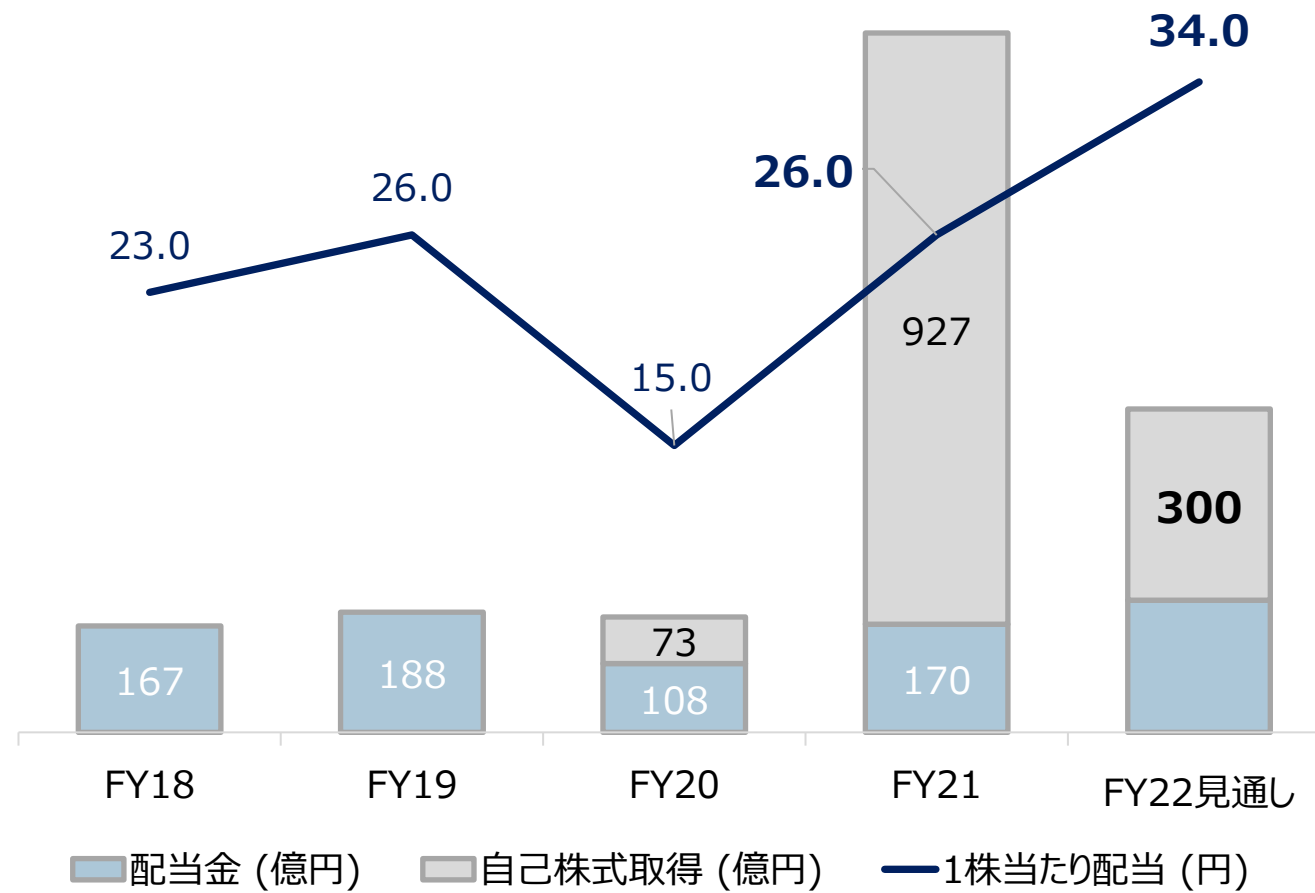


事業成長経費	-166
前年費用削減戻り等	-257

株主還元

期初見通しから変更なし

- 総還元性向50%の方針を堅持
- 増配と自己株式取得によるEPSの向上
 - 配当：
2022年度見通し 年間34円に増配
(中間17円 期末17円)
 - 自己株式：
機動的な自己株式取得を実施
追加還元として300億円を
上限に上期中に取得予定
⇒取得全株式を消却予定
6月末時点：118億円取得 / 39%進捗



リコーデジタルサービス アップデート

デジタルサービス成長の取り組み（日本）

お客様ニーズの高い領域で、掛け算でソリューションを展開

スクラムシリーズの勝ちすじ（ICT商材非依存）への注力

- ・ セキュリティ : 4-6月期に引き続き注力、2桁成長の継続
- ・ バックオフィス : インボイス制度対応、電帳法対応、
基幹業務改善のシナリオの展開

24のシナリオでバックオフィス領域での機会・追い風に注力



秋に「リコーブランド版 kintone（仮称）」を投入予定

- ・ 業種業務により深く刺さるソリューションを更に拡充
- ・ RSIプラットフォームの更なる拡大
⇒ドキュメント+デジタルプロセス領域のワークフロー・デジタル化で
2025年度にグローバルで売上500億円のビジネス創出



PFU社との連携による強化

- ・ マネージドITサービスのラインナップ
- ・ ケーパビリティ
- ・ エッジデバイスを活用した業種業務デジタルサービスへの拡張



デジタルサービス成長の取り組み（欧米）

欧州は買収した会社・販売会社共に着実に業績を拡大
今年度も引き続き買収実行

- 欧州にてコミュニケーションサービス領域でAVインテグレーター2社買収完了（2022年6月1日発表）
グローバルでW C&C（Workplace Communication & Collaboration）戦略を進める基盤を強化



A RICOH Company

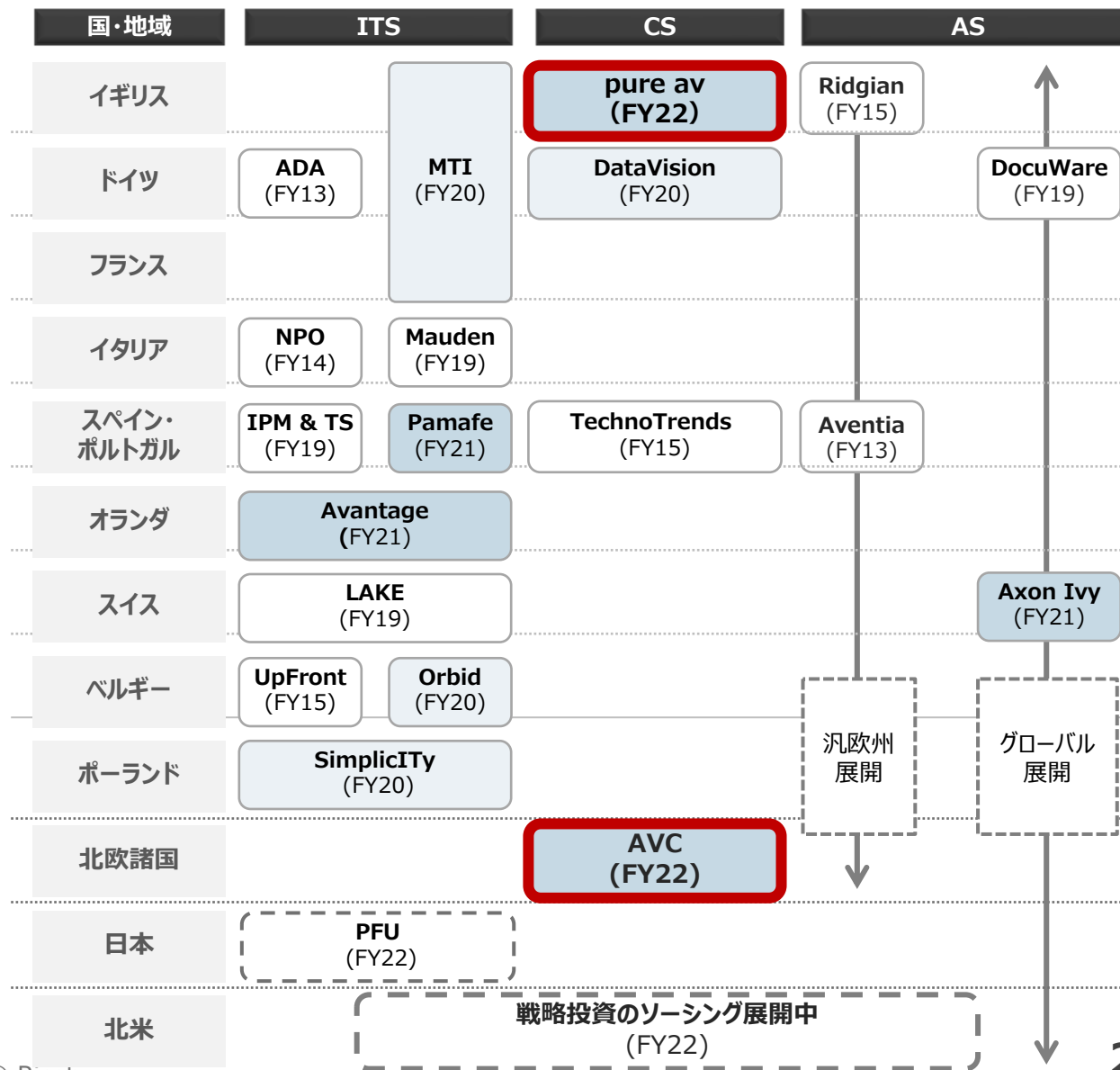
- 昨年度買収のローコード開発アプリケーション会社Axon Ivyは順調にPMIを推進中
⇒ 大手顧客への販売開始し、受注獲得
⇒ 社内活用も推進

米州はデジタルテクノロジーを活用したマネージドサービス展開の実績が出始めている

- ⇒ 大手層3業種（医療・金融・小売）サービス専任の前線配置
- ⇒ マネージドサービスのデジタル化の展開加速
- ⇒ 更なる成長を見据えて戦略投資検討

ITS: IT Services
CS: Communication Services
AS: Application Services

各地域 体制強化の進捗状況



補足資料

主要施策のKPI

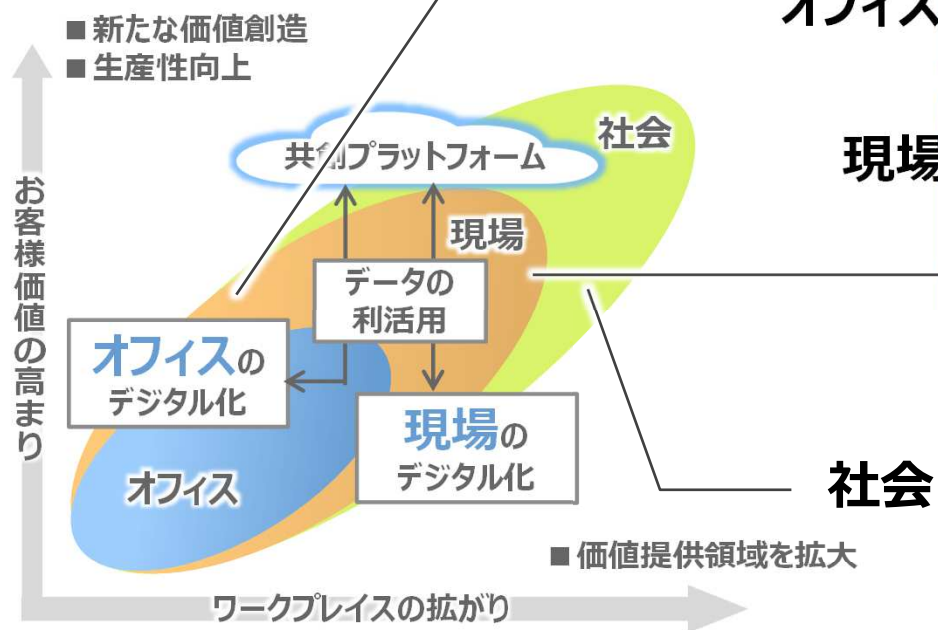
分野	KPI	FY21	FY22		
		実績	見通し	Q1実績	
OP	ハード売上 FY19比 (除為替影響)	売上	77%	83%	○ 82%
	ノンハード売上 FY19比 (除為替影響)	売上	81%	83%	○ 80%
CP	ノンハード売上 FY19比 (除為替影響)	売上	-	102%	○ 95%
OS	日本：スクラムパッケージ	顧客比率	13%	15%	○ 13.5%
		販売本数	76,441	100,000	△ 17,344
	日本：スクラムアセット	売上	313億円	450億円	○ 60億円
OP	現行機コストダウン：部品共通化	直接原価 (現行機)	-0.7%/年	-2%/年	△
	直労コストダウン：生産自動化 新型機コストダウン：仕入先共同原価改善	直接原価 (新型機)	-	-15%/年	
OP	設計業務デジタル化による開発効率向上	開発工数	-31% (FY20比)	-20% (FY20比)	○
	DMプロセス改善と遠隔生産管理による間接人員削減	間接人員数	-24%	-22%	
	製品特性に合わせた生産拠点集約・再編	生産拠点数	15拠点	13拠点	
OP	サービス工数低減機のMIF浸透	機種比率	46%	60%以上	△47%
	CEのマルチスキル化	専属CE削減	-10%(FY20比)	-15% (FY20比)	○ -12% (FY20比)
CP	欧米大手商用印刷顧客獲得	新規獲得数	3社	13社	○ 1社

リコーのデジタルサービスとは

お客様の“はたらく”に寄り添ったサービスと、それに貢献するデジタル技術・デバイス

EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES

人とデジタルの力で、
はたらく人やはたらく場をつなぎ、
お客様の“はたらく”を変革

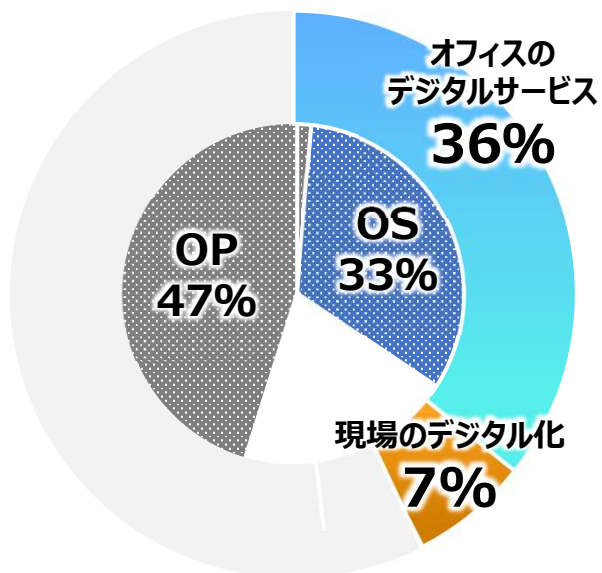


			デジタルサービス貢献事業	
オフィス	RDS	リコー デジタル サービス	はたらく人の課題解決と、 オフィスや現場ではたらく人を つなぐ デジタルサービス	オフィスサービス
	RDP	リコー デジタル プロダクツ	デジタルサービス を支える ものづくり	オフィスプリンティング ※RSI接続機対象 エッジデバイス
現場	RGC	リコー グラフィック コミュニケーションズ	印刷現場ではたらく人の 課題を デジタル で解決	商用印刷 ※企業内印刷 除く 産業印刷
	RIS	リコー インダストリアル ソリューションズ	物流・製造・産業の現場で はたらく人の課題を デジタル で解決	サーマル ※デジタルサービスへ転換中
社会	RFS	リコー フューチャーズ	デジタル で社会課題解決の 新規事業創出	SV 社会インフラ
グループ本部			デジタルサービス を支える 経営基盤の強化	

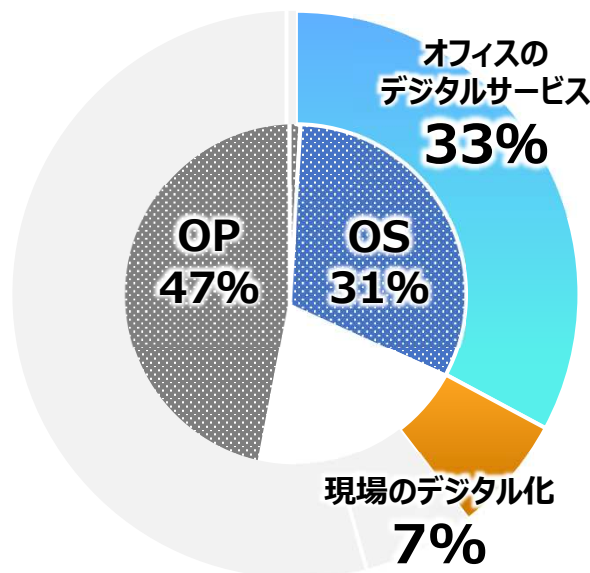
中長期目標：デジタルサービスの会社への変革

2025年度末に デジタルサービスの売上構成比 60%超を目指す

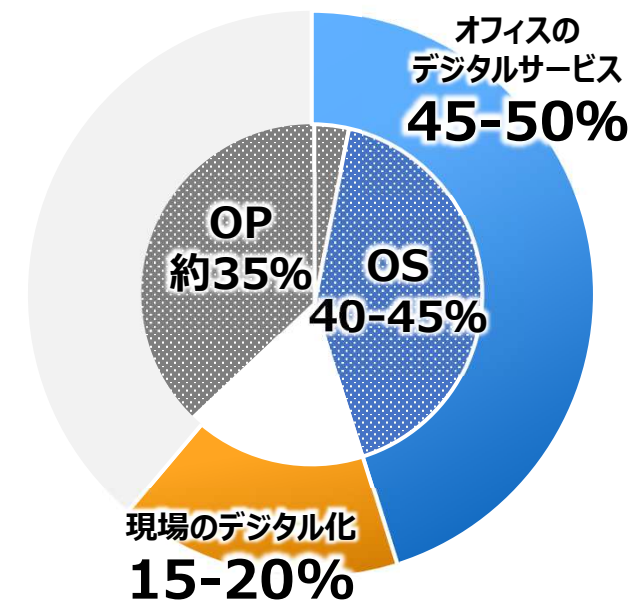
FY21 実績 **42%**



FY22 Q1実績 **40%**



FY25 目標 **60%超**



FY22 計画 **46%**

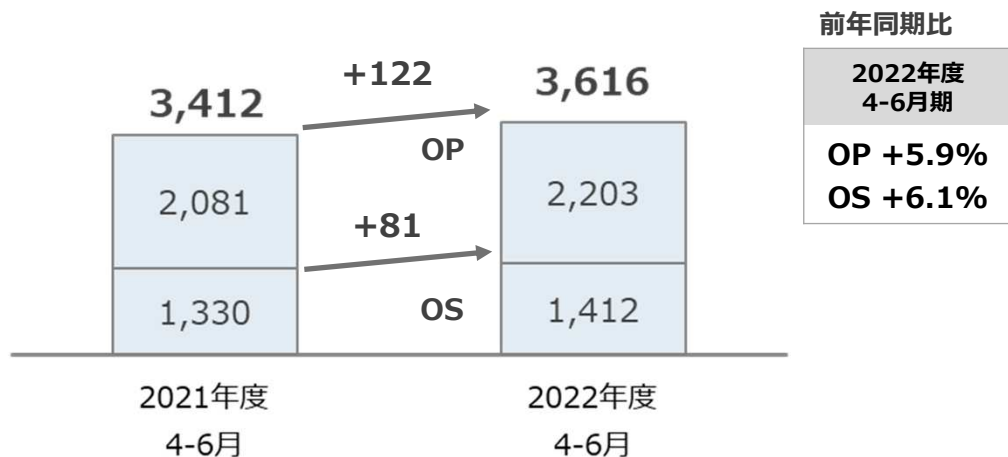
オフィスの
デジタルサービス **37%**
現場のデジタル化 **8%**

参考：旧セグメント概算

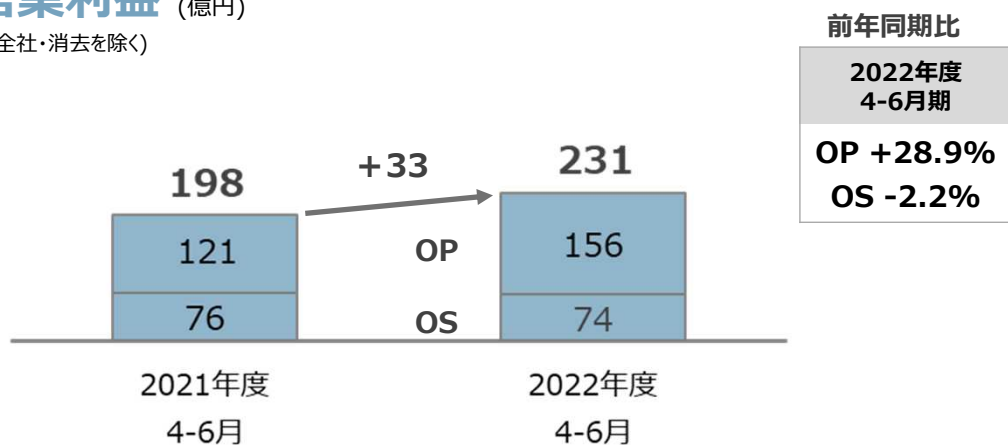
オフィスプリンティングは、体質強化やプライシングコントロール等により利益率改善

オフィスサービスは、日本におけるIT商材不足影響や北米における人件費増（急速なインフレ、経費抑制反動、政府支援金減少）等により営業利益(率)が微減

売上高 (億円)



営業利益 (億円) (全社・消去を除く)



概況

- オフィスプリンティング：増収増益 営業利益率 7.1%
- オフィスサービス：増収減益 営業利益率 5.3%

	(億円)	2021年度 4-6月期	2022年度 4-6月期
		売上	2,081
営業利益	121	156	
(率)	5.8%	7.1%	
売上	1,330	1,412	
営業利益	76	74	
(率)	5.8%	5.3%	

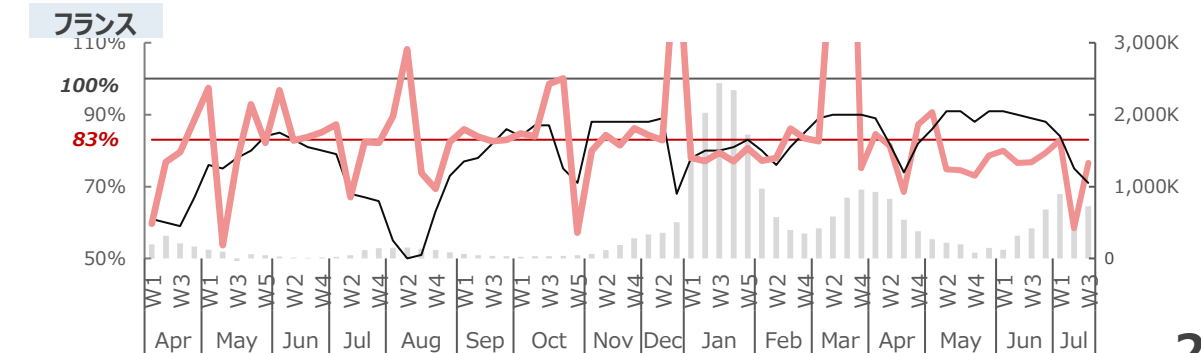
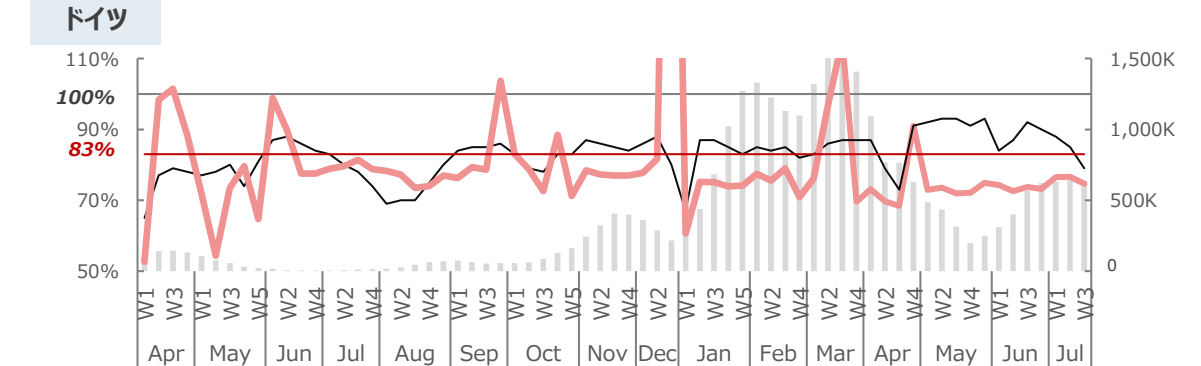
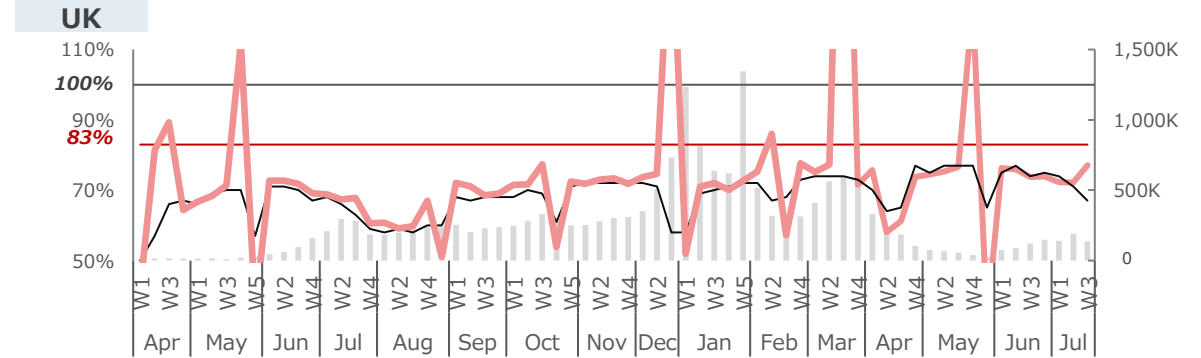
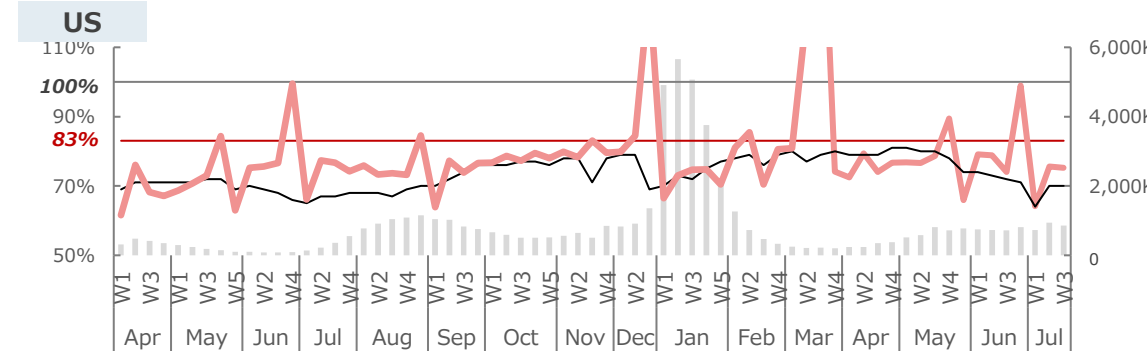
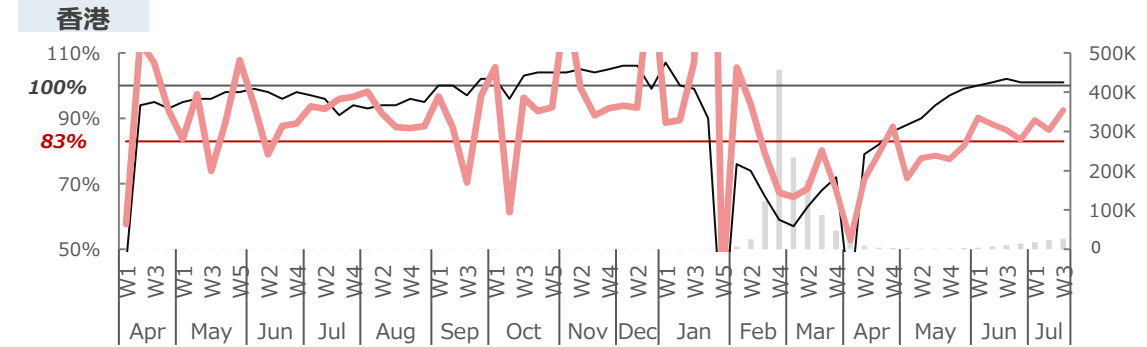
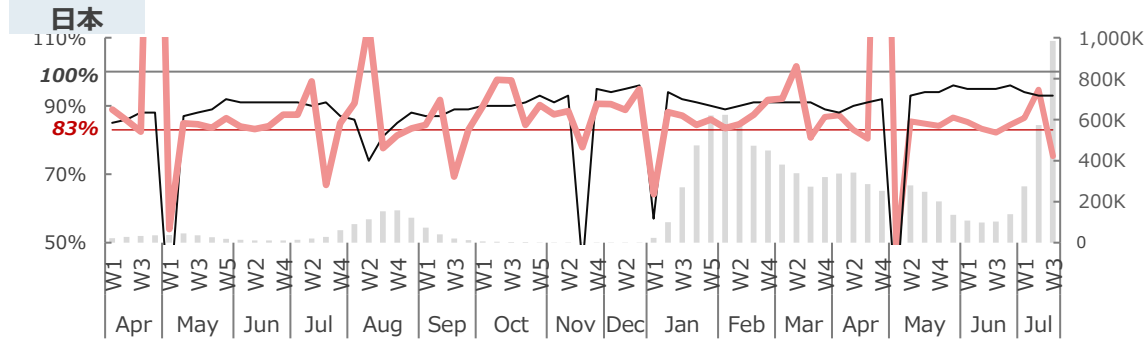
オフィスサービス事業 営業利益率推移 (一過性要因除く)



MFP出力量にみるコロナ影響

全体的にはオフィス回帰に伴い、PVは緩やかに回復

MFPプリント出力量の推移（国別）

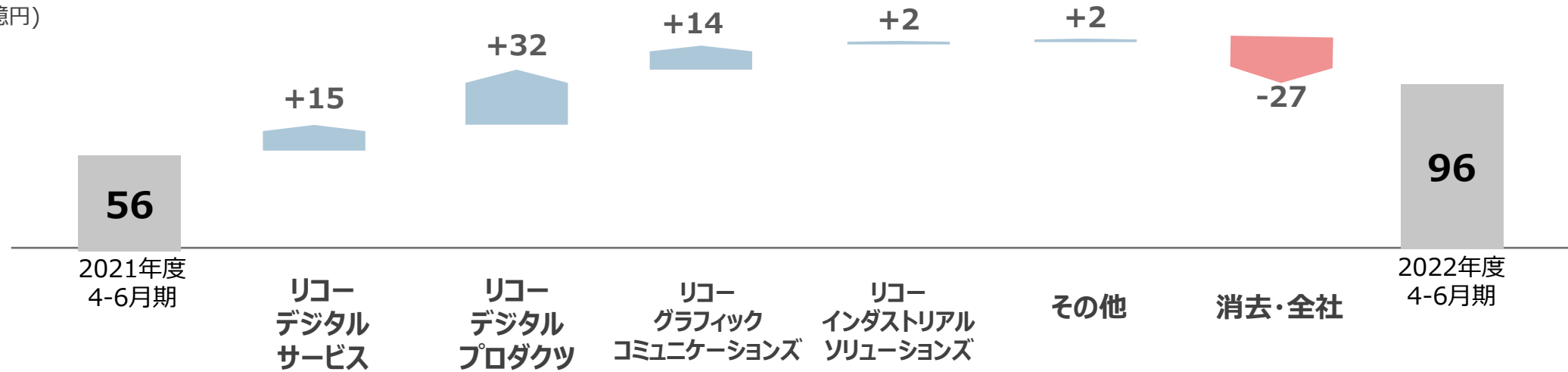


セグメント別営業利益

全セグメントにて増益

【前年からの増減】

(単位:億円)



営業利益

2022年度 4-6月期	29	122	24	-7	-30	-42
2021年度 4-6月期	13	90	10	-9	-32	-14

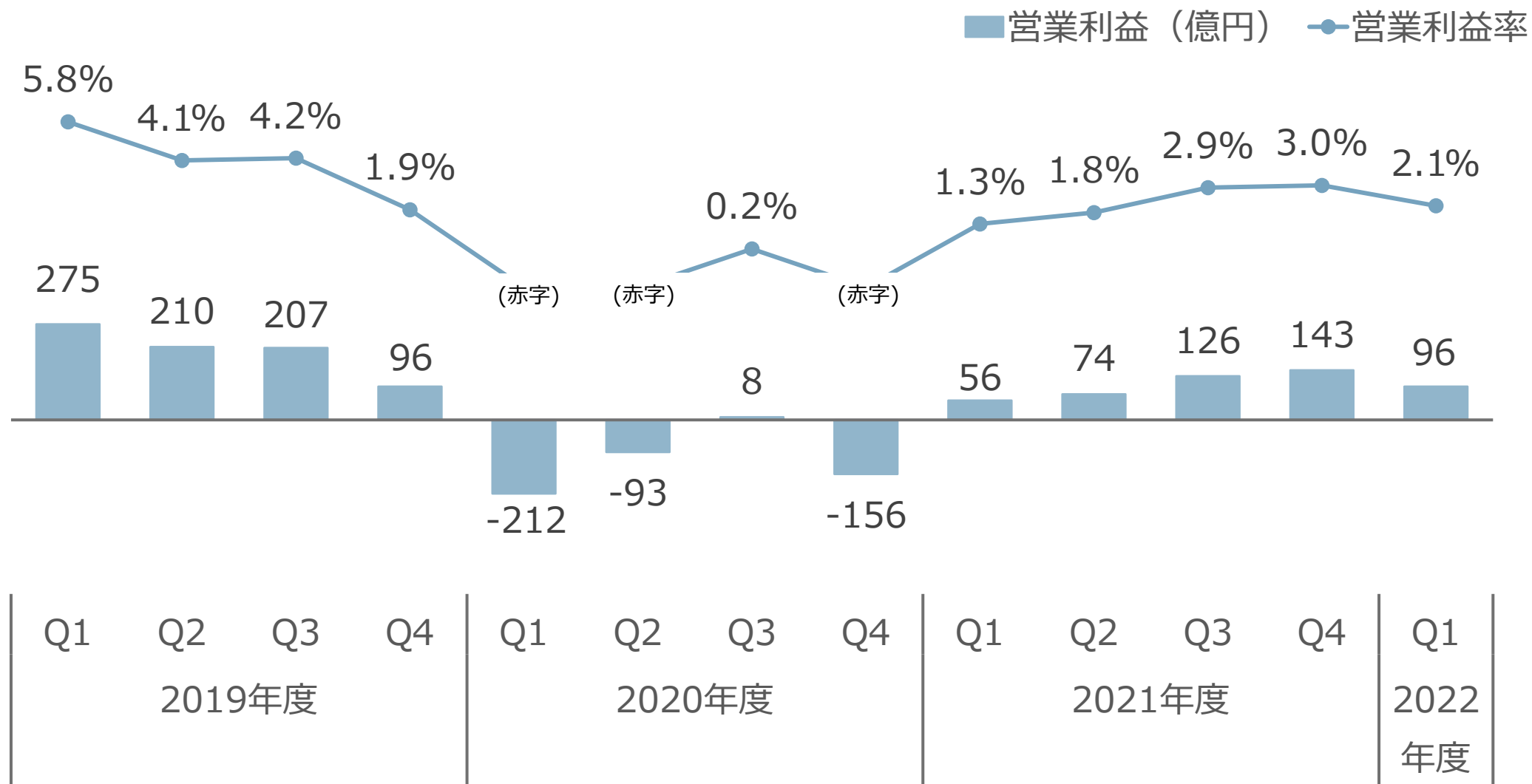
セグメント別 売上・営業利益

期初見通しから変更なし

RICOH
imagine. change.

		(単位：億円)	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 見通し
リコーデジタルサービス	売上		13,766	14,281	15,720
	営業利益		-26	162	396
リコーデジタル プロダクツ	売上		3,571	3,649	4,200
	営業利益		164	417	343
リコーグラフィック コミュニケーションズ	売上		1,599	1,870	2,340
	営業利益		-474	-4	140
リコーインダストリアル ソリューションズ	売上		1,152	1,192	1,415
	営業利益		-16	13	88
その他	売上		400	355	415
	営業利益		-138	-155	-111
全社・消去	売上		-3,669	-3,764	-3,590
	営業利益		37	-32	44
合計	売上		16,820	17,585	20,500
	営業利益		-454	400	900

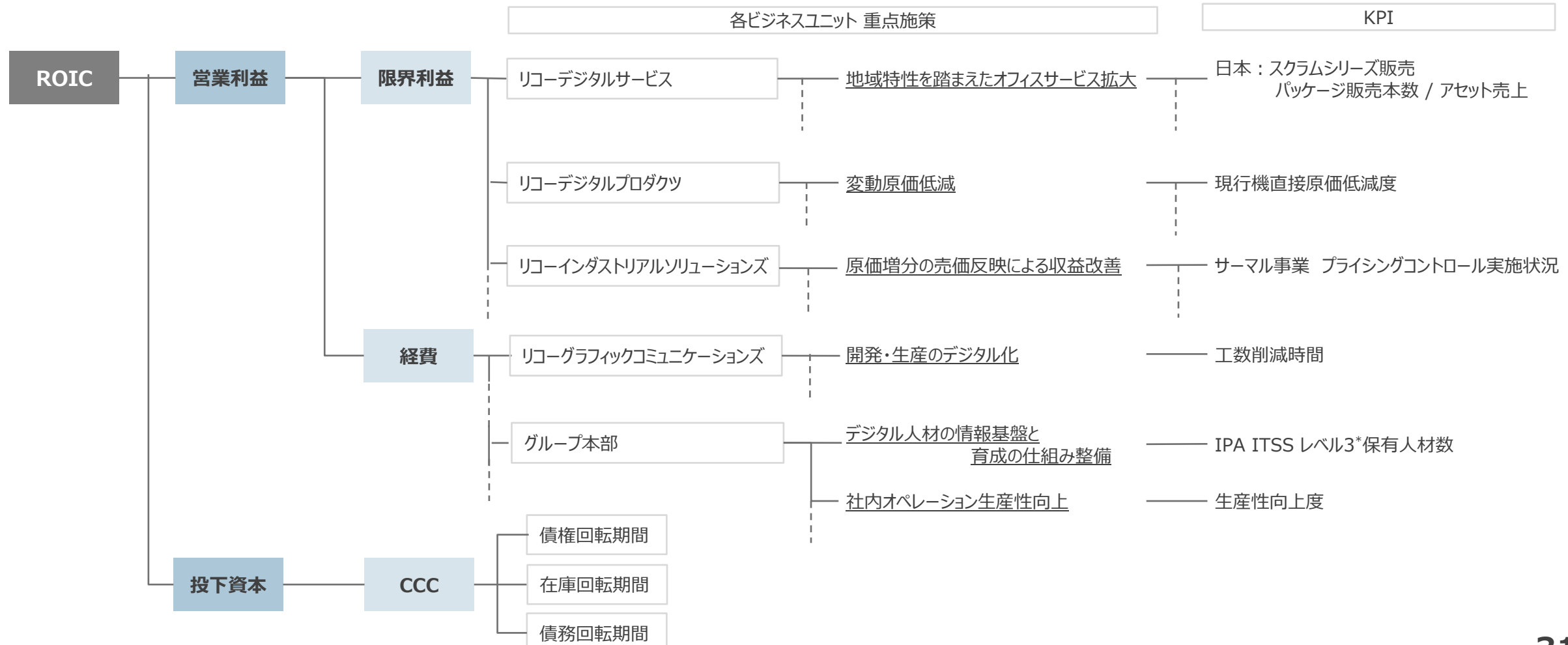
四半期営業利益推移



資本収益性向上に向けた取組み

ROICツリー管理の運用本格化（下段抜粋事例）

- ✓ 全社ツリーとビジネスユニット・部門別ツリーで二層管理
- ✓ 四半期ごとにモニタリング



RICOH

imagine. change.